

水耕栽培を実施する農家として子ども食堂との連携や、農場での不登校児の受け入れを経て、車椅子での作業に特化した農場を設立。各所との幅広い連携により、多様な人材の就労の場、交流の場の確保を目指す。

基本情報

- 所在地：沖縄県沖縄市
- 団体名：うりずんファーム
- 選定表彰：
 - ・平成25～令和2年 中部ファーマーズマーケット生産量No.1 (JAおきなわ)
 - ・平成30年 JAおきなわ青壮年大会 (青年の主張発表の部) 最優秀賞 同九州大会 日本農業新聞賞
 - ・令和3年 毎日農業記録賞 優秀賞
 - ・ノウフク・アワード2021フレッシュ賞
- 主力商品：
 - 葉物野菜、低カリウム野菜等
- 取得認証等：令和元年 認定農業者

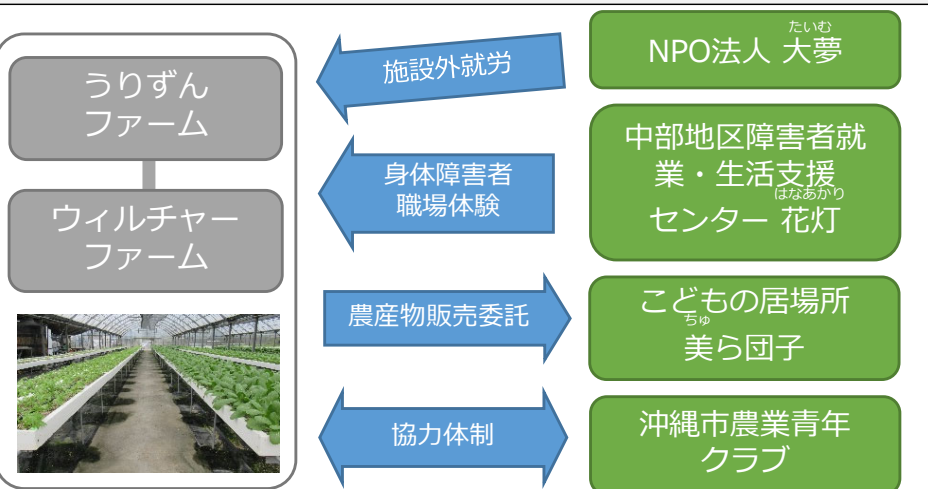
取組の概要

- 平成24年に就農し、水耕栽培を実施していたが、令和3年に車椅子に特化した農場ウィルチャーファームを設立。
- ハウス内での車椅子目線の導線は健常者では見つけにくいいため、「障害者就業・生活支援センター花灯」の協力のもと、身体障害者の職場体験を実施。補助する者が居なくても作業できるシステムづくりを実施。
- 沖縄の大きな課題である子どもの貧困の解決に寄与すべくファーマーズマーケットと共に子ども食堂への野菜の提供に取り組み、子ども達に農産物の生産から出荷までの過程を教える取組を継続して実施。
- 腎臓を患った方向けの低カリウム野菜の販路開拓を実施。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、就労継続支援サービスを行う「NPO法人大夢」と連携開始し、農場拡大で増加した作業を委託。
- 高等特別支援学校の職場体験を受け入れ、2週間の実習期間中に野菜の原価計算ができるまでに指導。実習生の自信に繋げている。
- 農場で不登校児を受け入れ、社会との接点を作る手助けを実施。



車椅子(=ウィルチャー)の作業に配慮した農場

体制図



取組の成果

- 障害や生きづらさを抱える方の出来ることを増やし、作業を担ってもらうことで、経営者として新たなチャレンジを行う時間的余裕ができ、経営規模の拡大が可能となった。
- 各所との連携を通じて販路拡大に繋がっている。
- 営農開始(平成24年) ⇒ 令和2年の推移

就労障害者数	0人名	⇒	8名
売上高	6,000千円	⇒	22,000千円



子ども食堂との農産物販売の様子

所在地 ▶ 沖縄県沖縄市池原3232-2

連絡先 ▶ E-mail: urizun1852@gmail.com

【取組のプロセス】

東日本大震災を契機に沖縄へ戻り営農を開始

平成24年

きっかけ

子ども食堂との連携や、農場での不登校児の受け入れを経て、義父が車椅子であったことなどから、高付加価値野菜を身体障害者と共に作りたいと考え、車椅子に特化した農場「ウィルチャーファーム」を開設

沖縄県で大きな社会問題となっている子どもの貧困へのアプローチ

平成30年

高等特別支援学校の職場体験、不登校児の受け入れの取組を開始

- 高等特別支援学校の2週間の職場体験の受け入れを、平成30年から年2回継続して実施。2週間の実習期間中に、野菜の原価計算ができるまで指導。生徒の自信に繋がっている。
- 令和元年頃からは、沖縄市職員を介して農場での不登校児の受け入れを開始。登校は難しくても農場には来てくれたことから、中学校と連携して卒業・就活の手助けを実施。



子ども食堂との連携

車椅子の義父が農場を訪れたこともきっかけとなり車椅子に特化した農場づくりを決意

令和元年

子ども食堂と連携して高付加価値野菜を栽培

- 令和元年、地元農家と子ども食堂に食材を届ける取組を行ったことをきっかけに、週1回、子ども達に野菜の生産から販売までのプロセスを教える取組を継続して実施。
- 子ども達とともに腎臓を患った方向けの低カリウム野菜を栽培しており、販売も委託。



子ども達と栽培する低カリウム野菜



車椅子でも快適に作業できるよう工夫

令和3年

車椅子に特化した農場を開設、福祉施設への作業委託も開始

- 令和2年、車椅子に特化した農場の開設を目指し、障害者就業・生活支援センターの協力のもと、車椅子の方の職場体験を実施。令和3年4月ウィルチャーファームを設立。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、令和3年8月より就労継続支援事業所からの施設外就労として、週2回8名に野菜の出荷調整作業等を委託。
- 障害者雇用している地元精肉店と連携し、老犬用ドッグフードを開発。
- 売上高は、平成24年の営農開始から令和2年には約3.6倍に、農地面積は約1.5倍に増加。また、各所との連携の効果で、生産物のPRや販路拡大にも繋がっている。



バリアフリー化した農場での職場体験

農場拡大に伴い作業が増加したことで福祉施設との連携を開始

今後の展望

車椅子の障害者が健常者に農業を教えるなどの幅広い交流を目指す

- 県外の修学旅行生の農業体験や、沖縄市農業青年クラブと連携し、コロナ禍で疲弊した医療従事者親子の収穫体験を実施。
- 今後も各所への農業体験を継続し、いずれは車椅子の方が健常者に野菜の作り方や障害を持つことによる制限等を教える観光農業に取り組み、様々な立場の方が交流できる農場を目標としている。

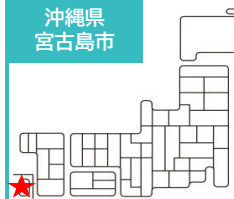


精肉店とコラボ開発したドッグフード

水耕栽培による葉物野菜の周年栽培を通し、離島における野菜の安定生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現。誰もが安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。

福祉事業所

沖縄県
宮古島市



きっかけ

H22年

島内で暮らす障害者の働く場の確保と野菜の安定的供給という地域ニーズに応えるため、周年栽培可能な野菜の生産を開始。

人を耕す

- 作業能力はあるものの一般企業に就労出来ない方を雇用する就労継続支援A型事業所の設置運営が急務であると考え、平成22年に「野菜ランドみやこ」を立ち上げ。
- 福祉的就労の工賃アップのため、個々の能力が十分発揮できるよう 構造化された作業環境と採算性の高い栽培システム(ポットファーム)を整備した「トマトランドみやこ」(B型事業所)を設立、大玉トマトを栽培し県内大手スーパーへ出荷。

地域を耕す

- 平成30年、地域や法人で生産している野菜を食材とした料理を提供する「ビュッフェレストラン太平山」(B型事業所)をオープン。接客員と客の関係で地域交流の場を生み出すほか、普段障害者の方と触れあう機会のない地域住民の障害への理解が深まった。
- 法人の設立から令和4年で21年を迎え、事業所は6カ所に利用者は100名に拡大。農業に携わる障害者数も、当初の18人(平成22年)から23人(令和3年)に増加。

未来を耕す

- 令和2年、トマトランドみやこを「メロンランドみやこ」に変更。コロナ禍の影響で 出荷が滞っているトマトに代わり、贈答品としての需要が期待できるメロン栽培を開始。
- 当初は、宮古島の気候を活かした農業を検討していたが、作業時期の偏りや他の農家との競争を考慮し、葉物野菜やトマトの養液栽培による周年栽培を実現。

取組

基本情報

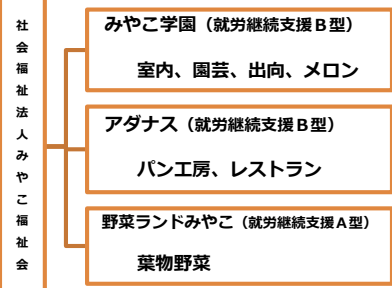
設立:H13年 / 農福連携取組開始:H22年
 取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携)(R1~3)
 主な選定表彰: R元年ディスカバー農山漁村の宝選定(沖縄)等

概要

主力商品
 (農作物)葉物野菜(サラダほうれんそう)、メロン 等

特徴的な取組
 特別栽培農産物

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

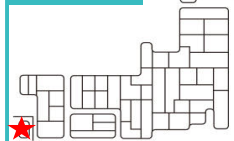
平均工賃月額(A型)	障害者数	売上高(野菜)	農地面積(ハウス面積)
90,999円(R2) →118,000円(R6)	24人(R2) →22人(R6)	2,289万円(R2) →2,636万円(R6)	0.6ha(R2) →0.6ha(R6)

- 夏場の暑さの影響による減収や、荒天による船の欠航などが起こると、島内の葉物野菜が不足していたが、葉物野菜の安定生産体制を構築したことで、常時安定価格で入手できる野菜として地域の食のニーズに応え、障害者の安定雇用も実現。
- LED照明やソーラーパネル導入による低コスト栽培により収益を伸ばし、全国平均を上回る賃金・工賃を実現。
- 様々な団体の視察を受け入れる等、沖縄県内での農福連携の広がり貢献。

住所: 沖縄県宮古島市平良字下里3107番地243
 TEL: 0980-73-7770
 Mail: miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp
 URL: http://www.miyakofukushikai.jp/

障害者を含むすべての人が笑顔になれるコミュニティづくりを目指し、有機栽培で国内では珍しいバナラビーンズの生産に取り組み、栽培、加工、販売まで行う。

福祉事業所

沖縄県
北中城村

きっかけ

H22年

「B型脱却・自立」を目指して、人や環境に求められる農業を行うことでコミュニティづくりを目指す。

人を耕す

- 障害種別で業務を分けず、個性を重視した仕事の割り振り、および成長を意識した作業指導により、役割を感じ、楽しく働いていただく。これらのことにより、就労意欲の向上を図り、継続的な就労や、一般就労へのステップアップに繋げている。

地域を耕す

- 荒廃農地を開墾するところからバナラ栽培を始めて現在8年目になる。昨年より、バナラ栽培にフォーカスして野菜の栽培を休止している。今後は村と共同でバナラの街として北中城村が発展できるように尽力する。

未来を耕す

- 将来的には独自技術で発酵、乾燥させるキュアリング加工場を整備し、生産拡大による荒廃農地の解消をする。また、観光農園化を進めることで、地域の産業の活性化に寄与していきたい。

取組

成果

平均工賃月額

50,790円

障害者数

R8年3月現在
18名

売上高

12,609千円

農地面積

2.5ha

- R6年3月、バナラのキュアリング技術を解明し、特許取得。今後はこの技術の完成度を高めて、県内の生産者に広げ、エンドユーザーに真に求められる商品を作り、県の産業の新しい柱をつくっていく。「バナラビーンズの製造方法」特許第7458604号

基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H22年

取得認証等:沖縄振興特定推進費(R元年度)

概要

主力商品
(農作物)バナラ特徴的な取組
有機栽培

体制図



受け入れている者

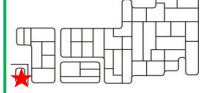
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:沖縄県中頭郡北中城村熱田277

TEL:098-989-8880

Mail:solfa.comm@gmail.com

URL:https://solfa.biz/



地域内の福祉事業所と連携し、障害者が農作業の一部を担うことで人手不足を解消。他者との連携や個性を大切にし、多様な人材の受入れ・育成や産地づくりに取り組む。

基本情報

- 所在地：沖縄県南城市
- 団体名：株式会社 みやぎ農園
- 選定表彰：
 - ・平成26年 全国環境保全型農業推進コンクール 奨励賞
 - ・平成29年 沖縄県農林漁業賞 畜産部門
- 主力商品：
 - 平飼い卵、露地野菜（しょうが、オクラ等）、
 - 加工品（マヨネーズ、ジンジャーシロップ等）
- 取得認証等：認定農業者



加工品(マヨネーズ)

取組の概要

- 約13,000羽の平飼い養鶏（約30a）と微生物資材を活用した露地栽培（約60a）、約80戸の契約農家から出荷される農産物の加工・販売等を実施。
- 地域の就労継続支援A型事業所から、精神障害をもつ利用者を中心に10名程度を施設外就労として受入れ、選卵作業や農産物の袋詰め、畑の除草作業を担っている。
- 作業行程を細分化し、音に敏感な障害者を養鶏場から農産物出荷場に配置換えする等、得意分野を継続的に作業できるよう工夫。
- G A Pの考えを取り入れ、整理整頓を心がけ障害者も作業しやすい環境づくりに努めている。
- 自社だけでなく、地域の農家と福祉事業所のマッチングの取組により、障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- 地域の放課後デイサービスに活動場所（ユニバーサル農園）の提供を試行しており、農業を楽しむことで将来的に農業への就労に繋がるきっかけづくりに取り組んでいる。



農産物袋詰め作業



卵の選別作業



出荷される農産物

体制図

株式会社 みやぎ農園
※(株)ファームミヤギ含む

作業委託



施設外就労

合同会社 Four-leaf くろーばー

取組の成果

- 障害者に作業の一部を分担することで人手不足が解消、社員が養鶏や食品加工に集中できるようになった。
- その結果、高い技術を維持し、契約農家への営農指導や人材育成の他、JICA事業でのブータンへの養鶏技術移転等の多様な取組を実施。

○取組当初(平成29年度) ⇒ 令和3年度
就労障害者数 3名 ⇒ 10名
耕作面積 32 a ⇒ 60 a



ブータンの鶏舎

所在地 ▶ 沖縄県南城市大里字大城2193番地

連絡先 ▶ TEL : 098-946-7646 問合せフォーム : <https://www.miyaginouen.com/contact>

ウェブサイト ▶ <https://www.miyaginouen.com>

【取組のプロセス】

「毎日の暮らしに
おいしさ幸せ
を」をコンセプト
に、地域に根ざし
た農業を開始

農水省の「農の雇
用事業」活用による
人材育成や、
「中山間地域所得
向上推進事業」を
活用して地域活性化
に取り組む

畑の問題を見える
化、何をすべきか
を示すため、GAP
を推進。日本生産
者GAP協会のGAP
審査員の資格を2
名が取得

教育機関と連携し
た人材確保・育成
に取り組む

地域農家と福祉施
設とのマッチング
の取組を開始

JICAの「草の根
技術協力事業」を
活用し、有機農業
を推進するブータ
ンでの鶏卵の生産
性を上げるため、
「微生物を活用し
た養鶏農家育成事
業」を開始

昭和63
年

きっかけ

職員だけでは人手が不足していたところ、地域に就労継続支援A型事業所を運営する法人が設立されたことをきっかけに、障害者の受入れを開始。

近代養鶏とは別の方法を模索し、平飼い養鶏をスタート

- 昭和63年、鶏をケージに入れない平飼いにより養鶏をスタート。
- 創業者（現会長）が試行錯誤を重ね、国内の平均的な養鶏場での飼育羽数より圧倒的に少ない羽数での平飼い、自家配合した発酵飼料、微生物資材を用いて鶏糞を堆肥化させた鶏舎の床等の工夫により、臭みのなく安心安全な美味しい卵を追求。
- 平成20年に法人化、沖縄県認証特別栽培確認事業所として農家の栽培履歴の確認開始。
- 平成25年、農の雇用事業（農水省）を活用した新規就農者の育成を開始。多様な人材による産地づくりや地域の活性化に積極的に取り組む。



平飼い養鶏



出荷される卵

平成29
年

地域の就労支援A型事業所から障害者の受け入れを開始

- 当時、野菜の出荷作業にあたり、職員だけでは人手が不足していたところ、市内に設立された就労継続支援A型事業所を運営する法人から障害者を施設外就労として受入れ、作業の一部を担ってもらうことで人手不足が解消。



地域の農家

令和元年

地域農家と福祉施設のマッチング等、新たな取組の展開へ

- 養鶏の飼養管理の強化や、耕作地の作業の見直しに伴い、畑での作業委託を模索したが、現在は障害者に担ってもらう作業場所として地域の農家とのマッチングを開始。自社だけでなく、地域農家と繋ぐことで障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- JICAの草の根技術協力事業を活用し、ブータンへの養鶏技術移転を開始。



ユニバーサル農園の試行的取組

今後の
展望

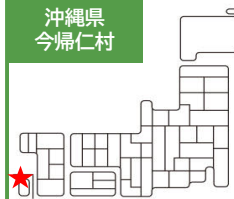
多様な人材と連携した地域に根ざした「美しいむらづくり」を

- 令和2年には生産部（養鶏、耕作）を分社し、(株)ファームミヤギを設立、グループ会社として施設外就労を継続。また、令和4年には新規作物の栽培管理、地域支援を担う(株)みやぎ農園AgriPlanを設立し、ユニバーサル農園の運営を試行的に開始。
- 働きづらさを抱える方の農業分野での就労や、産地の価値・魅力の向上等、農業の地域貢献の取組にも引き続き取り組んでいく。
- 持続可能な循環型農業を目指し、地域と一体となって地域に根ざした事業を行う「美しいむらづくり」構想の実現を目指す。

荒廃農地や廃校を活用し、「沖縄ワリ蚕」の大規模養蚕を実施。繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、スキンケア用品への加工や輸出等により工賃を向上。

農業経営体

沖縄県
今帰仁村



基本情報

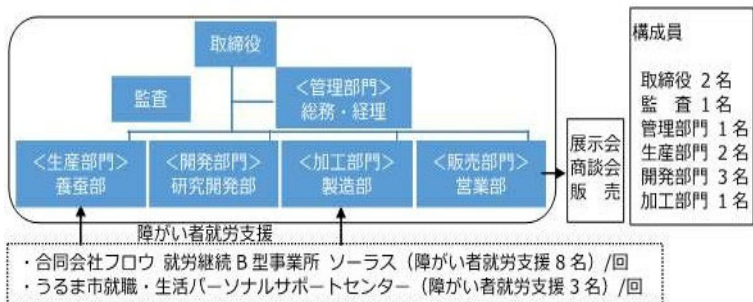
設立:H18年/農福連携取組開始:H28年
取得認証等:6次産業化認定事業者

概要

主力商品
(加工品)スキンケア用品
特徴的な取組
6次産業化、輸出



体制図



きっかけ

H28年

荒廃農地や廃校の利活用の課題解決に向けて一般的なカイコとは異なる沖縄ワリ蚕の大規模養蚕からなるモノづくりをスタートし、障害者の活躍の場を創出。

取組

人を耕す

- 養蚕の作業である、サナギと繭(シルク)との分別作業を就労支援B型事業所等と連携して行い、障害者の活躍の場を広げているほか、積極的に高齢者を雇用。
- 6次産業化により、「沖縄シルク」をスキンケア商品として加工し、ブランド化して輸出することで売上を伸ばし、障害者等1名あたりの平均工賃月額が沖縄県の平均以上を維持。

地域を耕す

- 廃校を養蚕の作業場として活用。H25年から荒廃農地の再生に取り組み、現在、2.5haを「沖縄ワリ蚕」の餌を栽培するほ場として借り受けることで、荒廃農地の解消に貢献。
- 高齢農家や村から農地を引き受けてほしいといった要望が増加。県内の特別支援学校と連携し、養蚕・農作業体験を実施する企画を考案するなど、地域内交流を推進。

未来を耕す

- 自社独自の技術により国内で唯一、「沖縄ワリ蚕」の大規模養蚕に成功。採れた繭をパウダー化し、配合したスキンケア用品の製造販売のほか、「沖縄ワリ蚕」のサナギを用いた機能性食品素の開発、動物用医薬品につながるタンパク質生産等の研究開発を実施。
- 荒廃農地の新たな利活用のため大手企業と連携。地球温暖化対策として、一般的な植生の20倍のCO2を吸収するとされるモリンガを植林。

成果

平均工賃・賃金月額	障害者数	シルクススキンケア売上高	農地面積
工賃 1万円(H28) →4.4万円(R5)	利用 45人(H28) →72人(R5)	0円(H28) →1,998万(R5)	1.3ha(H28) →2.5ha(R5)
賃金 13.4万円(R5)	雇用 2人(R5)		

- 絹産業の非繊維分野への進出に加えて、6次産業化による「沖縄シルク」のブランド化及び輸出を行い、障害者や高齢者の活躍の場の創出、健康づくり、所得向上を実現。
- 特別支援学校の農作業体験や収穫体験の受入れ、学生向けの講義やシンポジウムの開催を通じ、農福連携の輪の広がりに貢献。

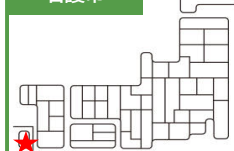
0980-56-3367/info@ukami.co.jp/

https://www.ukami.co.jp/

視察受入れ:可/ 報道機関受入れ:可

農福連携を通じて名護産農作物のブランド化や増産に取り組む。農業×福祉の好適な循環により工賃向上と農地面積の拡大を実現しているほか、荒廃農地の解消と農福連携の新規就農者育成にも尽力。

農林水産業経営体

沖縄県
名護市

きっかけ

H
26
年

当社社長と(社)ワークサポートひびきスタッフが知人であり、福祉施設利用者が出来る作業について相談があったことをきっかけに連携を開始。

人を耕す

- 工賃は毎年向上しており、R6年は県平均を上回る。また、他の作業収入と合わせてボーナスも支払い、利用者のモチベーション向上に貢献。
- 利用者に能力に応じて出来る作業から始め、難度の高い作業へと少しずつステップアップしている。

地域を耕す

- 農業×福祉の好適な循環が実現できており、農地面積の拡大に寄与。
- 荒廃農地や高齢化で農業を続けられなくなった農家の農地を借り受け、自社農場として利用。新規就農者と分担することで農地の維持・活用と新規就農者支援の両方を実現。
- 収穫体験を行っているほか、昨年県立農大生の実習受け入れも実施。

未来を耕す

- 人手不足解消や作業の効率化を目指し、スマート農業のテスト運用を実施。
- 地道な継続的な取組で、着実に地域農業の課題に対応していることが、これから取組を始めたいと考えている主体の背中を押すことになることを期待。
- 加工食品会社と連携し、共同開発した「冷凍オクラ」を県内外に出荷して市場価値向上を図る。

取組

成果

基本情報

設立:H25年 / 農福連携取組開始:H26年

取得認証等:認定農業者(H25)

概要

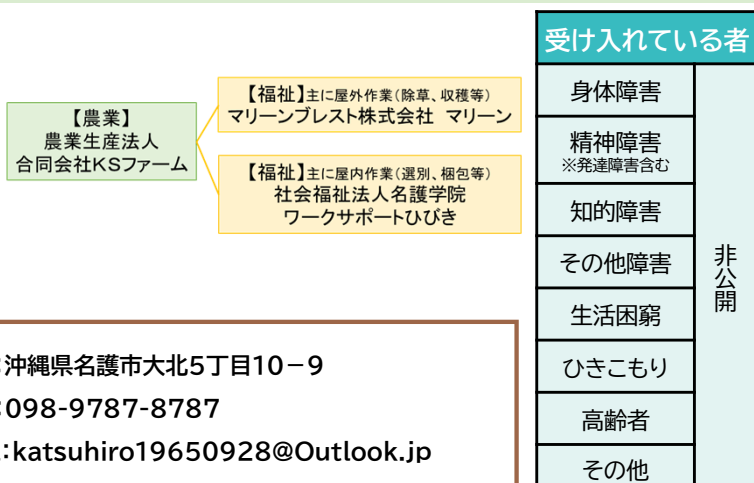
主力商品

(農作物)野菜(オクラ、ゴーヤ等)、果樹
(加工品)乾燥オクラ

特徴的な取組

スマート農業、環境保全型農業、特別栽培農産物

体制図



住所:沖縄県名護市大北5丁目10-9

TEL:098-9787-8787

Mail:katsuhiko19650928@Outlook.jp

平均工賃月額

4,039円(R2)
→17,468円(R6)

障害者数

20人(R2)
→34人(R6)

農地面積

5ha(R2)
→7.3ha(R6)

- 農作業に従事する中で自然とリーダー的な存在の利用者が出てきたり、互いに教えあったり、時に注意があったりと良好な雰囲気は保たれている。
- 当社で育成しているのは新規就農「福」者であり、就農した時点で既に農福連携の取組経験を積んでいるため、独立した後も継続することが可能に。
- (社)ワークサポートひびきから一般就労した者が複数人おり、農作業が利用者のステップアップに大きく寄与。
- 農業の規模を年々拡大していく中で、迅速かつ丁寧に作業をしてくれる利用者は、なくてはならない大切な戦力となっている。